

【解答例】

問題Ⅰ

- 問1 縄文時代は住居中央の炉で食料を焼き土器による煮炊きを行ったが、古墳時代になると渡来人の影響で住居内にカマドが設置され甑で蒸すことが定着した。
- 問2 ア-掘立柱 イ-倉庫
- 問3 礎石建築は土台に埋めた石の上に柱を立てるもので、従来の掘立柱建築に比べ耐荷重の面で優れていたため、瓦葺の重い屋根を持つ寺院などに採用された。
- 問4 恭仁京への遷都にあたり、儀式の際に天皇が出御する大極殿の造営が大幅に遅れた。そのため、平城京に残っていた大極殿を解体して移築し、再利用した。
- 問5 鑑真は仏教の発展を望み戒律を伝えた。これにより東大寺などに受戒のための戒壇院が置かれたが、最澄は延暦寺に独自の大乘戒壇院を設置しようとした。
- 問6 菅原道真は『日本三代実録』を編纂し遣唐使停止を建議した。政変により大宰府にて没後、怨霊として恐れられ北野天満宮で天神、のちに学問神とされた。

問題Ⅱ

- 問1 (1) 将軍による命令。長井泰重は鎌倉幕府の御家人で、備前・備後の御家人に命令を下せる立場であることから、両国の守護を務めていたと考えられる。
- (2) 同じ土地で1年の間に2種類を栽培する二毛作。裏作の麦に課税することを禁じ、農民の収入とすることを国内の御家人らに指示するよう命じた。
- 問2 (1) アー熊野
院政期に上皇らの間で熊野詣が盛んとなり、のちには武士・庶民にも広がった。
- (2) a 主題は荘園の開発状況で、用水を整備して新たに開墾する荒野の位置を記した。
- b 幕藩領主の主導で大規模な開発が進んで地域一帯が水田化された近世とは異なり、中世では荘園領主が主導して開発が進められ、開発には限界があった。
- c 集落間での水利をめぐる争いにおける証拠書類とするため。

問題Ⅲ

問 1 アー一定免法 イー検見法

一定免法は豊凶に関係なく一定期間同じ税率を課すものだが、検見法は毎年収穫を調査してその収穫に応じて税率が決められた。

問 2 5

問 3 藩債を長期年賦償還として整理するとともに、新田開発による年貢の増徴を行うなどして増収をはかり、特産物の生産を奨励して藩による専売制を実施する。

問 4 寛永の飢饉による百姓の疲弊のなかで、大名は百姓が生業を維持できるよう仁政を施し、百姓はそれにこたえて年貢を完済すべきだという考え方。

問題Ⅳ

問 1 安政の五カ国条約によって開港場となり、外国人の居住、貿易の取引のための居留地が設けられ、欧米文化がいち早くもたらされたため。

問 2 野蛮

明治政府は西洋文明の摂取を進める開化政策によって近代化を推進しようとし、旧来の日本の伝統文化や風習を遅れたものとして排斥した。

問 3 農作業は旧暦にもとづいて行うことが慣習となっていたため。

問 4 プレス=コードをしくGHQは、原爆の悲惨さが知られてアメリカに対する反感が広まり、日本がアメリカの脅威となるのを防ぐ占領政策の障害となることを恐れた。

問 5 内閣総理大臣は中曽根康弘で、行財政改革の一環として電電公社・専売公社・国鉄の三公社の民営化を断行し、NTT、JT、JRが発足した。

問 6 戦争遂行にむけて、戦時体制の確立のための人的資源の確保には、文化・スポーツによって国民の心身を鍛錬することが必要であるとされた。